

Network Convergence System(NCS)1000シリーズデバイスからのログ収集

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景](#)

[ログコマンド出力](#)

[PuTTY](#)

[SecureCRT](#)

[コマンドをローカルに保存](#)

[show techsのキャプチャ](#)

[Linuxシェルでのファイルの収集](#)

[ファイルの転送](#)

[コンテキスト間でのファイルのコピー](#)

[管理者からXRにコピー](#)

[SysadminからXRへのコピー](#)

[ホストから管理者へのコピー](#)

[ファイルを外部の場所にコピーする](#)

[ファイルをUSBにコピー](#)

[ファイルのクリーンアップ](#)

[関連情報](#)

はじめに

このドキュメントでは、NCS1001、NCS1002、NCS1004、およびNCS1010を含むNCS 1000シリーズから情報を収集するプロセスについて説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

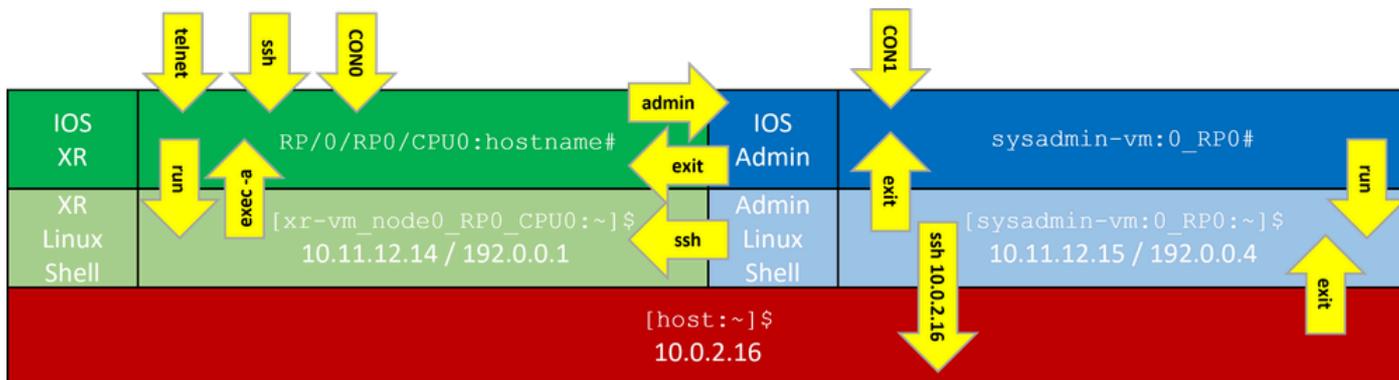
使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景

NCS1001、NCS1002、およびNCS1004には、ログとファイルを収集するための複数のコンテキストがあります。図は、これらのコンテキスト間を移動する方法を示しています。NCS1010はXR7を実行するため、実行のみ（XR Linuxシェル）を備えています。XR以外のコンテキストから情報をキャプチャするには、異なる場所の間でファイルをコピーする必要があります。

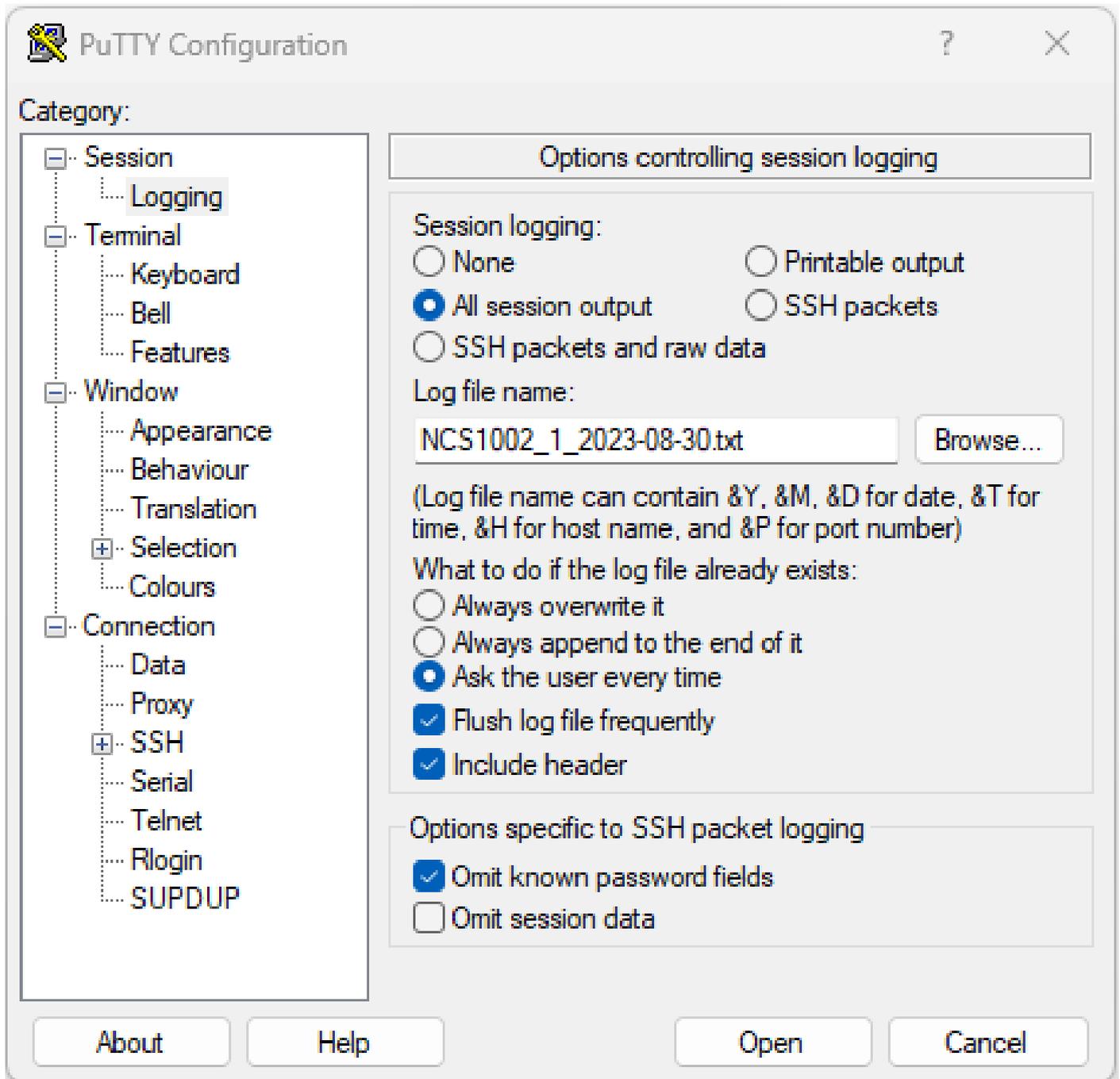


NCS1Kコマンドラインコンテキスト

ログコマンド出力

PuTTY

Session > Loggingでセッション出力をキャプチャします。



PuTTYコマンドのロギング

SecureCRT

File > Log Sessionの順に選択して、CLI出力を保存します。

コマンドをローカルに保存

大量の情報を含むコマンドの出力を直接NCS1Kに保存するには、出力をファイルにパイプします。

注：詳細な出力を含むdebugコマンドは、ファイルにパイプされるときにデバイスストレージにすばやく書き込むことができます。

<#root>

RP/0/RP0/CPU0:NCS1002_1#

show inventory | file harddisk:/inventory.txt

Wed Aug 30 15:35:51.322 UTC

[OK]

ハードディスクに保存されたファイルを確認します。

<#root>

```
RP/0/RP0/CPU0:NCS1002_1#
```

```
dir harddisk:/inventory.txt
```

```
Wed Aug 30 15:37:29.941 UTC
```

```
Directory of harddisk:
```

```
48 -rwxr--r--. 1 1128 Aug 30 15:35 inventory.txt
```

show techsのキャプチャ

show tech-supportコマンドは、多数のコマンドの出力を収集し、それらを1つ以上のファイル（通常はharddisk:/showtech）に収集します。必要な特定のshow techコマンドは、現在の問題によって異なります。管理コンテキストには、一連のshow techコマンドが個別に存在します

```
<#root>
```

```
RP/0/RP0/CPU0:NCS1002_1#
```

```
show tech ncs1k detail
```

```
Wed Aug 30 16:23:20.995 UTC
```

```
++ Show tech start time: 2023-Aug-30.162321.UTC ++
```

```
Wed Aug 30 16:23:24 UTC 2023 Waiting for gathering to complete
```

```
.....  
Wed Aug 30 16:35:30 UTC 2023 Compressing show tech output
```

```
Show tech output available at 0/RP0/CPU0 : /harddisk:/showtech/showtech-NCS1002_1-ncs1k-2023-Aug-30.162
```

```
++ Show tech end time: 2023-Aug-30.163534.UTC ++
```

Linuxシェルでのファイルの収集

/var/logディレクトリの内容には、さまざまな問題の診断に役立つ多数のファイルが含まれています。これらすべてのファイルを収集するには、tarコマンドを使用します。この例では、NCS1002のsysadminコンテキストを使用します。

まず、ルートディレクトリに移動し、/misc/disk1にtarファイルを保存するための十分な空き領域があることを確認します。

```
<#root>
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$
```

```
cd /
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:/]$
```

```
df -a
```

```

...
/dev/mapper/panini_vol_grp-ssd_disk1_calvados_1      3997376  172592  3598688  5% /misc/disk1
/dev/mapper/panini_vol_grp-ssd_disk1_calvados_swtam_1  47472    264    43484    1% /misc/swtam
/dev/loop1                                           1015700  197972  748916  21% /var/log
/dev/loop2                                           469636   4500   430020   2% /misc/config
/dev/loop3                                           1020456   1804   948768   1% /misc/scratch
none                                                 512      0       512     0% /mnt
debugfs                                              0        0        0       - /sys/kernel/debu
/dev/loop4                                           3860988 1720220 1924924  48% /install_repo
tmpfs                                                10240    0       10240   0% /media/install_t

```

/var/logフォルダの内容を圧縮し、新しいファイルが存在することを確認します。

```
<#root>
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$
```

```
tar -czf /misc/disk1/admin_var_logs.tgz /var/log
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$
```

```
ls -lrt /misc/disk1
```

ファイルをXRコンテキストにコピーして、別の場所に転送できるようにします。

ファイルの転送

コンテキスト間でのファイルのコピー

XRコンテキストのみが外部サーバに接続するため、デバイスからコピーする前にすべてのファイルがそこに存在している必要があります。

管理者からXRにコピー

```
<#root>
```

```
sysadmin-vm:0_RP0#
```

```
dir harddisk:/showtech/
```

```
sysadmin-vm:0_RP0#
```

```
copy harddisk:/showtech/
```

```
admin_var_logs.tgz
```

```
harddisk:/showtech location 0/RP0/CPU0/VM1
```

SysadminからXRへのコピー

```
<#root>
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$
```

```
scp /misc/disk1/showtech/
```

```
admin_var_logs.tgz
```

```
root@10.11.12.14:/harddisk:/showtech
```

```
admin_var_logs.tgz
```

sysadmin /misc/disk1の場所は、admin harddisk : の場所と同じです。同様に、xr-vm /misc/disk1に保存されたファイルは、XR harddisk : の場所に表示されます。すべてのNCS 1000デバイスはこの規則を使用します。

ホストから管理者へのコピー

```
<#root>
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$
```

```
scp root@10.0.2.16:/
```

```
host_var_logs.tgz /misc/disk1/showtech
```

ファイルを外部の場所にコピーする

NCS 1000は、複数の異なるファイル転送方法をサポートしています。この例では、ファイル転送プロトコル(FTP)を使用して、ハードディスクから外部FTPサーバにファイルをコピーします。

```
<#root>
```

```
RP/0/RP0/CPU0:NCS1002_1#
```

```
copy harddisk:/showtech/
```

```
admin_var_logs.tgz
```

```
ftp://root@
```


Wed Aug 30 19:37:41.739 UTC

Delete harddisk:/showtech/host_var_logs_host.tar.gz[confirm]

すべてのshow techファイルを削除するには、ワイルドカード*.tgzを使用します。

```
<#root>
```

```
RP/0/RP0/CPU0:NCS1002_1#
```

```
delete harddisk:/showtech/*.tgz
```

Wed Aug 30 19:39:16.864 UTC

Delete harddisk:/showtech/*.tgz[confirm]

rmを使用してLinuxシェルからファイルを削除します。

```
<#root>
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:/$
```

```
rm -v /misc/disk1/admin_var_logs.tar.gz
```

```
removed '/misc/disk1/admin_var_logs.tar.gz'
```

関連情報

- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。